みなとMOTOMACHIケンチクさんぽ vol.2

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部
兵庫地域会　地域まちづくり委員会

元町商店街のお店の構え

元町周辺を建築の専門家がウロウロして、建築的視点で今まで気付かなかった良さを見つけ出すという連載の二回目です。ＪＩＡの仲間が交代で担当します。今回は私の勤める旧神戸山手大学（現関西国際大学）の2017年卒業のＫ君が調べた元町商店街の卒業論文から、商店街の特徴を見てみましょう。タイトルは「商店街における店舗の外部構成-神戸元町商店街における実地調査を通して-」です。この論文の参考にしている有馬さんたちの研究※１に商店街のタイプの分類があります（下の図１）。分類を元町周辺に当てはめると、市場型の屋根ありは「モトコ―タウン」、屋根なしは「南京町」、「元町商店街」は歩行者天国型屋根ありでしょうか。乙仲通りは「歩車一体型」、大丸百貨店以東が「歩車分離型」にあたるでしょう。そして商店街を形成する大事な要素が二つあるとしています。お店の外観のタイプ（店舗ファサード）とサイン他（行動誘発要素）です。外観はopen(オープン)、all(全面ガラス)、half(部分ガラス)、close(クローズ)の4タイプ(図２)、サイン他はテント、ショーウィンドウ、ワゴン、ショーケース、テーブル・椅子、立て看板、のぼり、の7タイプ(図３)あるとしています。

ファサードタイプでは商店街全体ではオープン型（32.9%）と全面ガラス型（36.5%）が半数を占めています。1番街から西に行くに従いオープン型が減り、全面ガラス型が増えているようです。1番街～4丁目は服飾店が一番多いのですが、5丁目は飲食店が一番多いという結果でした。ファサードと業種の関係を見てみましょう。服飾系の多い1番街から4丁目はオープン型と全面ガラス型が半数以上を占めますが、飲食店の多い5丁目はオープン型とクローズ型がほぼ同じ数となっています。飲食店はやはり丸見えなお店を避ける傾向があるようです。

サイン他の特徴を見てみるとオープン型と全面ガラス型はワゴンとショーウィンドウが多くなっており、クローズ型になると立看板が多くなります。

有馬さんらの結論は、車両の有無、アーケードの有無、立地がお客さん達のアクティビティに大きな影響があるとしています。オープン型は歩行者専用道に立地した食品、物販、服飾系に多く、ワゴン等の要素を備え、購買活動を発生させていて、商業的活気を作り出しているとのこと。全面ガラス型は市場型以外の服飾、物販業が多く、ハーフ型は歩車分離型街路に多くサインも少なくアクティビティにあまり影響しない、とのことでした。

そして次のような指摘もしています。「綺麗なショーウィンドウばかりの大型商業施設では路上に活気あるアクティビティをもたらさない。」と。そして「歩行者天国などの社会実験や公的空間の整備なども盛んに実施されているが一方で民間の建物・店舗のデザインも含めた中心市街地のマネージメントも必要ではないか」と問いかけています。

この「活気あるアクティビティ」こそ今後の元町が求めているものであるならば、民間主体で構成されているみなと元町タウン協議会の役割は、今後ますます重要になってくるのではないでしょうか。

図1

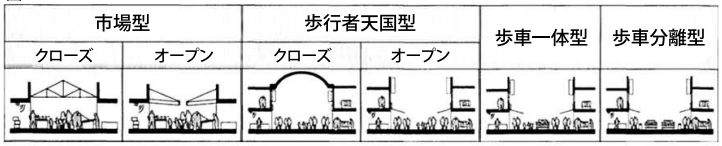


図2

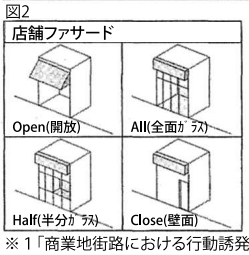
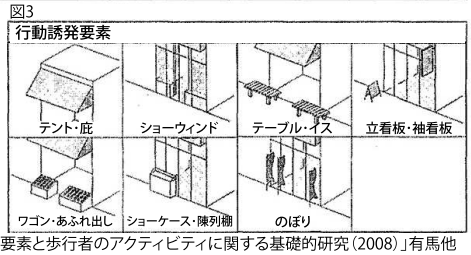


図3



※１「商業地街路における行動誘発要素と歩行者のアクティビティに関する基礎的研究（2008）」有馬他

1,2．南京町
3．JR高架，六甲山
4．ポートタワー
5．緑の「門」かも
6．移動キッチンカー

商店街から広がる街

Ｋ君の調査のその後を確かめるために商店街を1番街から6丁目まで歩いてみました。当時とお店が入れ替わっている所もあり、悲しいのは閉まったシャッターに「テナント募集」の張り紙が見られることです。少し悲しみに浸りながら歩いていると、ふと横を見て、路地の向こうにポートタワーが正面に見えたときに心がぐっと明るくなりました。前回のコラムに繋がるシンボルの力でしょうか。すべての路地路地からポートタワーが覗けたら、嬉しいでしょうね。歩き進んで5丁目辺りから商店街のカーブが少しきつくなり奥が見通せないところがありました。これもなかなか良い感じです。すずらん灯がうまい具合に連続している感じがとても良く、歩く楽しみになります。そして商店街のなかのベンチが登場しました。商店街を歩く所だけでなく、立ち止まり、話をし、休憩する場所とする設えはもっとあってよいと思いました。折角広い商店街を道路としてだけでなく、滞在場所にすることは有効でしょう。6丁目の入口横の壁の続くビルの前にキッチンカーのカフェがあり、上手く壁の寂しさを賑わいに変えていました。

商店街を再訪し気付いたことは「元町商店街の魅力は辻々にあり」でした。商店街と交わる路地や道路から見える景色の魅力は他の商店街には見られません。路地の向こうに南京町がチラチラと見えるのはとても魅力的です。北側を路地から見ると六甲の山々の頂きが見えます。次の路地からは元町のJR高架と走る電車、モトコ―タウンが見えます。元町北通りの雰囲気がチラチラと見えるのも良い感じです。極めつけは南側を覗いたときにドンと正面に見えるポートタワーでしょう。路地の入口は裏通りへの魅力的な門となり、表通りの商店街から人を奥へ誘い、賑わいが面として広がっていきます。だから商店街の交差点での「門」のデザインが大事になります。積極的に辻々の構成をより意識的にデザインできないでしょうか。

「何か提案を」と言っていただけましたら、関西国際大学の学生が、いやいやＪＩＡのメンバーも（きっと）、よろこんで案を作りますので、是非ご一報ください。

山隈 直人（やまくまなおと）
(株)kt一級建築士事務所 代表
／関西国際大学(旧神戸山手大学)
現代社会学部総合社会学科 教授
／2015-2016年度乙仲通界隈デザインワークショップ実行委員